

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等																															
学内からの視点																																	
プログラムの履修・修得状況	IT都市化センター運営委員会でプログラムの履修・修得状況の確認を行っている。2024（令和6）年度の履修・修得状況は下記のとおりである。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">2024（令和6）年度</th> <th colspan="3">参考：2023（令和5）年度</th> </tr> <tr> <th></th> <th>国際経営学部</th> <th>教育学部</th> <th>計</th> <th></th> <th>国際経営学部</th> <th>教育学部</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>履修</td> <td>48</td> <td>6</td> <td>54</td> <td>履修</td> <td>17</td> <td>6</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>修得</td> <td>33</td> <td>4</td> <td>37</td> <td>修得</td> <td>15</td> <td>6</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>	2024（令和6）年度			参考：2023（令和5）年度				国際経営学部	教育学部	計		国際経営学部	教育学部	計	履修	48	6	54	履修	17	6	23	修得	33	4	37	修得	15	6	21	<p>2024年度は、両学部の履修ガイダンスにおいて、本プログラムを学ぶ意義や授業内容等を説明し、受講を推奨した。初めての開講であった昨年度に比べれば、わずかに履修者数が増えたものの、プログラム修了に至った学生の比率は下がっている。より多くの履修者が単位修得できるように、授業計画や方法を工夫していく。</p>
2024（令和6）年度			参考：2023（令和5）年度																														
	国際経営学部	教育学部	計		国際経営学部	教育学部	計																										
履修	48	6	54	履修	17	6	23																										
修得	33	4	37	修得	15	6	21																										
学修成果	本プログラム対象の授業「特別講義A（データサイエンス）」では、Microsoft Teamsで作成した授業用チームを使用して各回の課題を提示し、提出状況や理解度が確認できるようにしており、提出状況や理解度が芳しくない学生に対して、サポートを実施している。このことで、学生の理解度を把握しながら授業を進ることができる。また、学生からの課題提出を基に、学生の到達目標の達成具合を把握している。	<p>なお、「学生による授業評価アンケート」の授業科目により得ることができた資質・能力を問う質問では、「専門的知識・技能や教養」では89.6%、「新しい考え方や視点」では75.9%、「課題を発見し、解決に向けて考える力」では75.8%、「専門的知識を活用し、活動や実践に取り組む力」では75.8%の回答者が「そう思う」または「どちらかというと思う」と回答しており、履修者の多くが学修の成果を実感しているものと推測される。</p>																															
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「学生による授業評価アンケート」において、授業内容の理解に関する質問を設定している。2024（令和6）年度は、回答者の約9割が「わかりやすい授業だった」について「そう思う」または「どちらかと言うと思う」と回答している。また、上記の授業科目により得ることができた資質・能力を問う質問からも、理解度は良好であると考えられる。																																
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	「学生による授業評価アンケート」では後輩等の学生への推奨度に関する質問を設けていないが、「わかりやすい授業だった」「当該授業の内容・領域に興味をかきたてられた」「この授業を受けて満足した」といった質問を行っている。全回答者のうち、これらの質問について「そう思う」または「どちらかというと思う」と回答した学生の割合は、「わかりやすい授業だった」79.3%、「当該授業の内容・領域に興味をかきたてられた」75.8%、「この授業を受けて満足した」68.9%であった。授業科目に対し好意的な結果であり、後輩等の学生への推奨度も高いものと推測される。																																
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	国際経営学部では、2024（令和6）年度入学生から適用されるカリキュラムにおいて、授業内容が明確に伝わるように科目名称を「データサイエンス」に変更し、卒業必修科目として2年次に配当することとした。そのため、2025（令和7）年度は履修者数の大幅な増加が確実である。	<p>教育学部では、2024（令和6）年度までは3年生以上が履修できる科目であったが、2025（令和7）年度からは1年生から履修できるように変更する。履修ガイダンスにおいては、引き続き、当プログラムを学ぶ意義や授業内容等を説明し、多くの学生が興味を持ち、履修してくれるよう促していく。</p>																															
学外からの視点																																	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	2024（令和6）年度の時点では、当該プログラムを修了し卒業した学生は出ていない。	<p>今後は、就職課と連携してプログラム修了者の進路の把握を行う他、卒業生の就職先企業を対象に行っているアンケート調査等とおして、企業からの評価等を確認する。</p>																															
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	他授業科目のゲストスピーカーとして登壇した企業の方や学内の産学連携プログラムの提携先企業に協力を依頼し、当該プログラムの内容・手法、本学学生に対して期待する数理・データサイエンス・AIに関する資質・能力等についてヒアリングやアンケート調査を行い、結果をIT都市化センター運営委員会で共有し、プログラムの改善に活用する。	<p>なお、協力者から、ここ数年、数理・データサイエンス・AIが社会人としてのリテラシーとなっており、学生時代に基礎を学んでおくことは必要であること、学生が「学ぶ必要性」を感じて積極的に受講するように大学としての取組が必要であること、今後入学してくる学生の変化に合わせて大学での教育内容を適宜見直ししていくことなどが指摘されている。</p>																															
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	社会で話題となっているAIやデータサイエンスに関する話題を積極的に取り上げるなど、学生たちが「知っている話題」を導入とすることで、興味や好奇心を促す取り組みを実施している。そして、学生たちの身近な部分に数理・データサイエンス・AIが活用されていることに気づかせることで、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を感じられるような工夫をしている。さらに、Microsoft Teamsで作成した授業用チームを使用して各回の課題で寄せられた内容で理解度を把握し、取り上げる事例の選定も実施している。																																
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	本学では文系大学生のため、専門的な内容の理解に困難が生じる場合がある。本プログラム対象の授業「特別講義A（データサイエンス）」では、本学の担当教員が執筆した「大学基礎 データサイエンス」（実教出版）をテキストとしている。このテキストは、文系大学生や数学が苦手な学生を対象としており、生活に身近な具体的な事例を多く取り上げたり、数式を極力少なくして説明することで、数理・データサイエンス・AIの本質や活用の意義をわかりやすく説明している。また、担当教員による「例え話」や「生活に身近な例」を挙げて説明することで、楽しくわかりやすい授業となるように工夫している。																																